安井曾太郎《秋の霞沢岳》昭和13年(1938)
長野県信濃美術館蔵

玉井敬泉《白山図》大正10年(1921) 石川県立美術館蔵

横山大観《雨後之山》昭和16年(1941)
富山県水墨美術館蔵

古賀春江《夏山》昭和2年(1927)
愛知県美術館蔵

大下藤次郎《穂高山の麓》明治40年(1907)
東京国立近代美術館蔵

山の絵のはじまり

「山の日」の誕生を記念し、岳都・松本が山岳美術展を開催いたします。

明治から昭和前期にかけ、雄大な山容、天空の里を描いた画家たち46人、そのより抜きの120点を紹介します。

山がまだ神秘のヴェールに包まれていたころ、人は裾野から仰ぎ見て、畏れを抱いたり、仙境を想い描いたりしていました。明治30年代、20世紀の幕開けとともに近代登山が始まります。地理学者、測量士、山師らにまじって、画家たちもまた、日本の国土の未開の部分に分け入りました。広大な神々の庭、目もくらむ大滝、山また山の大眺望。雷鳴がとどろき、しのつく雨。そのあとの燃え立つような夕映え。足元の可憐な花たち…。新鮮な風景の発見と驚きは、同時に新たな視覚の誕生でもありました。画家たちは、自然の霊気や息吹など、そのすべてに同化しながら未知の色彩を見つけ、新しい美を生み出します。

登山が身近になるにつれ、山の絵のスタイルも多様になっていきました。しかし、人が山にはじめて向かい合った原初の体験は、今なお、この上なくみずみずしい感動を伝えてくるのです。

山の日制定記念 遥かなる山 発見された風景美

Mountain Aura
The Discovery of the Japanese Alps

関連プログラム

▲記念トークショー
「山が教えてくれること」

石川 直樹(写真家)

KIKI(モデル)

ゲストお二人に山での体験や感じたことなどをお聞きしながら、山を描いた画家の思いも探ります。

コーディネーター
小川 稔(松本市美術館館長)

日時／8月28日(日) 14:00～15:30
会場／美術館 多目的ホール
料金／無料　定員／100名
〔要事前申込〕8月5日(金)から美術館へ

▲ワークショップ
あそ美じゅつ「妖怪のいる風景を描こう」

山の風景を描くとしたら、どんな絵を描きますか?
山の姿形、草木や花々、動物や昆虫…
そして、妖怪たち!?
風景に隠れる"不思議な気配"を
描いてみましょう。

講師／原 良介(画家、多摩美術大学非常勤講師)

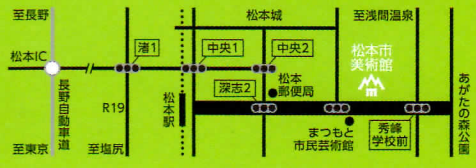
日時／8月4日(木)・5日(金) 10:00～15:00 2日連続
会場／1日目…城山公園(松本市)、2日目…美術館 講座室・市民アトリエ
料金／1,000円　定員／中学生20名(小学校5・6年生も可)
※雨天の場合は4日のみ、美術館での開催
〔要事前申込〕7月5日(火)から美術館へ

▲ギャラリートーク
学芸員によるギャラリートーク

日時／7月21日・28日、8月18日・25日
(いずれも木曜日) 10:30～
料金／無料(ただし、当日有効の本展覧会観覧券が必要です)
定員／各回20名程度
〔申込不要〕会場入口前に集合

松本市美術館
MATSUMOTO CITY MUSEUM OF ART
〒390-0811 長野県松本市中央4-2-22
TEL.0263-39-7400
http://matsumoto-artmuse.jp/

◇松本バスターミナルからアルピコ交通バス・横田信大循環線5分[松本市美術館]下車
◇JR松本駅からタウンスニーカー(市内周遊バス)東コース14分[松本市美術館]下車
◇JR松本駅から徒歩12分　◇長野自動車道松本インターチェンジから車で15分



割引券
本券1枚につき
5名様まで当日券が
100円引き
(遥かなる山展のみ有効)